

ムサビの教員が選ぶ
美大生におすすめの本

Recommended books for art students.

美学美術史研究室
奥 健夫教授

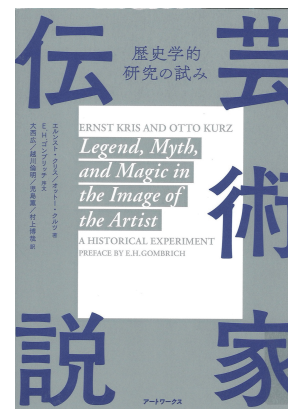
『芸術家伝説：歴史学的研究の試み』

エルンスト・クリス, オットー・クルツ 著 ほか
アートワークス, 2023

みなさんの多くは、初対面の誰かと話していて自分が美大生だと名乗ると、おや、という顔をされた、という経験があるのではないのでしょうか。あるいは「私（俺）美大生だから」という言い方で自分を語るということはないのでしょうか。遠い昔、芸術という概念の成立とともに芸術家という「特別な」存在が生まれました。芸術家は一般の人々より一段高い存在とみなされ、またその裏返しとして、時にうさんくさい眼でみられたり社会規範からの逸脱が語られたりもします。古今東西の芸術家伝の中にはいくつかの定型的なモチーフが繰り返し登場します。それらは実生活での芸術家のふるまいが人々の視線を反映して誇張され類型化することによって成立したものです。

本書ではそうした定型的モチーフの成立の事情がじつに豊富な事例を挙げて語られます。さらに末尾で、芸術家伝の中で形成された芸術家像の定型が、今度は逆に現実の芸術家の想像力に対して働きかけることにもなるという見通しが短く示されますが、この点こそが本書の執筆の目的だったともみえます。基本的には、そうした定型的イメージが芸術家に働きかけるのは無意識の思考や行動のレベルにおいてでしょうが、また定型的イメージを意識的に利用して、世間に対して自己演出を行う一定型と異なることをやってみせるというのも含めて一ことも珍しくありません。

本書は美術史の専門書ですが、エピソード集としてもたいへん面白く読め、何より視覚イメージを生み出すという行為のもつ意味を考えさせるという点で、実技系の人たちにも一読をおすすめしたい書物です。



貸出中

This book is currently on loan.